

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 11月 15日

公表:令和 6年 11月 21日

事業所名 こども発達支援きのね ironoha

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14				
	2	職員の配置数は適切である	14			定員10人に対して、常時4~5人の職員で支援している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	1	6	段差のない玄関や滑りにくいマットを使用している	バリアフリー化については今後必要に応じて検討していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	2		ほぼ毎日ミーティングをしている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	3		回収後、話し合いをしている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	5	1	ホームページで公開している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	6	1	行政書士に毎月訪問してもらい、評価してもらっている	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	2		社内研修を実施している	今後は非常勤職員にも積極的に研修の機会を確保していく
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	2		1年に2回以上、対面での面談を実施している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	3		発達検査や診断書を元に客観的に状況把握を行っている	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	4		ミーティングでイベントの案を出し合っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	3		・イベントや日々の支援の内容についてミーティングで話し合っている ・子ども自身がやりたいことを提案したり、スタッフが環境設定を提案している	ひとり一人の思いを尊重しながら、皆が楽しめるよう工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	11	3		学校休業日にイベントを行っている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	11	3		状況に応じ、一人ひとりに対応した支援を行っている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	2		支援前にミーティングでその日の連絡事項や役割分団を必ず確認している	非常勤職員にも支援前にその場で連絡事項を確認してもらうようにする
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	4		・翌日にミーティングを行い、支援の振り返りをし、共有している ・支援記録を記入する上で子どもの様子を共有したり疑問に思ったことを伝えたり話し合っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	1		毎日全利用者の記録をとり、翌日のミーティングでその内容について共有している	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	2		1年に2回以上、対面での面談を実施している	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	5		学習面、運動面、心理面等子どもに合わせて複数のアプローチを行っている		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	3		主に児童発達管理責任者と法人の代表が参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	11	3		・下校時刻表を毎月お願いしている ・何か問題があった場合は情報共有、連絡調整をしている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/	現在受け入れがない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	6		同一法人の児童発達支援から、通っていた園などの情報は引き継いでいる	今後必要であれば連携していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	8	1	現在対象の利用者がいない	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	7		研修や交流会に参加している	今後は地域との連携を強化していくため、積極的に研修や交流会に参加できるよう体制を整えていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4	8	公園や公共の施設に出かけた時に、地域の子どもの関わる場面がある	・まずは、利用されているお子様のきょうだいを招待するなどして、交流する機会を作っていく ・児童館のイベントなどにも参加していく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	5	3		情報収集に努めながら、参加の機会を増やしていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	1		・送迎時にその日の支援の様子を伝えている ・必要であればメールや電話で話し合っている	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	7	2	講座としてのペアレント・トレーニングは未実施だが、保護者の不安や悩みがあれば、電話や面談で情報を共有し、対応力向上に向けて助言したり、共に考え、支援している	保護者が受けられる研修や相談会などの情報を提供していく	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	6		契約時にしっかり説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	4		通常のモニタリング時の面談以外でも、必要であれば電話やメール、対面で助言している	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	5	1	定期的にきのねカフェという保護者交流会を開催している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	2		苦情があった場合は、苦情解決責任者が迅速に対応し、その後職員で共有し、再発防止について話し合いをしている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	4		月に一度、保護者向けに通信を発行している。また、ホームページで活動の様子を発信している	ホームページの更新を可能な限り増やしていく
	35	個人情報に十分注意している	14				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	2		連絡帳やメールを活用している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	7		施設を開放して地域のお子様を招待するようなイベントも考えていく。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	3	1	マニュアルはいつでも職員が閲覧できるようにしてある	非常勤職員にもマニュアルを周知していく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	2	1	半年に1度は災害訓練を行っている	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	3		・虐待防止委員会を設定している ・毎年研修を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	11	3		契約時に保護者に説明している	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	13	1		・ダブルチェックを徹底している ・保護者から対応方法をお伺いして対応している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1	1	ヒヤリハット事例については必ずミーティングで話し合うようにしている	